

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 高崎市国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

協会主催の日本語教室に義務教育年齢の学習者が増えてきているが、支援内容など対応に苦慮しているほか、支援者の数が足りず、断る場合がある。そこでまず、日本語を母語としない子どもに対する日本語学習支援等をする人を募集・養成する。そして、その人材を活用した具体的な支援策として、既存の日本語教室のほか各小学校区にある地区公民館や学童クラブを活用して支援を拡充し、要請があれば学校等に派遣する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月12日	高崎市役所	伊藤 健人 須田 洋光 飯岡 弘道 町田 秀幸 高橋 義信 飯島 均 曾根 光広	1)事業計画(内容)について 2)子どもの日本語教育について	1)について了承を得た。 2)について意見を交換した。 目的を達成するための方針を協議した結果、子どもの日本語学習支援ができる人材を養成する講座を速やかに実施し、人材の活用については、継続検討することとした。
6月22日	高崎市役所	伊藤 健人 須田 洋光 飯岡 弘道 町田 秀幸 高橋 義信 飯島 均 曾根 光広	1)受講生(申込者)について 2)夏休み子ども日本語教室について	1)について報告した。 2)について、対象や募集方法について確認。 あくまでもボランティアの支援力を高めるための教室であることを確認した。

11 月 4 日	高崎市役所	伊藤 健人 須田 洋光 飯岡 弘道 町田 秀幸 高橋 義信 曾根 光広	1)子ども日本語学習 支援ボランティア養成 講座について(報告) 2)報告書作成につい て 3)その他 ・群馬県立女子大内 に設置された「地域日 本語教育支援センタ ー」について ・外国籍児童生徒の 受入れ及び今後の具 体的支援活動につい て	1)について報告し、運営 委員の評価を聞いた。 2)報告書(案)をもとに意 見交換した。 3)において、2 つの事項 について情報交換及び 意見交換が行われた。
11 月 30 日	高崎市役所	伊藤 健人 須田 洋光 飯岡 弘道 町田 秀幸 高橋 義信 飯島 均 曾根 光広	1)報告書について 2)決算見込について 3)その他	1)について報告書(変更 案)が承認された。 2)について報告し、承認 された。 3)外国籍児童生徒の受 入れ状況と今後の支援 拡充について意見交換 が行われ、継続協議の 方向性が示された。



3 養成講座の内容について

- (1) 講座名 子ども日本語学習支援ボランティア養成講座
- (2) 目標 日本語を母語としない子どもに対する日本語学習支援等ができる人を育成する
- (3) 受講者の総数 23人

(出身・国籍別内訳: 日本22人、ブラジル1人)

(4) 開催時間数(回数): 44時間 (22回)

(5) 参加対象者の要件

子どもの日本語教育に関心がある人で、講座終了後、高崎市国際交流協会のボランティアとして、子どもの日本語学習支援にたずさわれる人。

(6) 受講者の募集方法

市広報と協会会報及び HP に掲載したほか、チラシを作成し協会事務局に置いた。

(7) 会場: 高崎市役所

(8) 使用した教材・リソース: 「ゆうき」ほか。

(9) 講座内容

	日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
1回	6月10日 (金) 18:30～20:30	オリエンテーション 講座の目的と内容	群馬県立女子大学准 教授 伊藤 健人	22名
2回	6月15日 (水) 18:30～20:30	子どもに対する日本語教育・学 習をめぐる課題1 ことばがわか らないということ	群馬県立女子大学准 教授 伊藤 健人	23名
3回	6月17日 (金) 18:30～20:30	子どもに対する日本語教育・学 習をめぐる課題 2 ‘文型’と‘で きること’の対比	群馬県立女子大学准 教授 伊藤 健人	21名
4回	6月22日 (水) 18:30～20:30	年少者を対象とした日本語教育 ー教育内容と方法についてー	群馬県立女子大学講 師 ヤン・ジョンヨン	22名
5回	6月24日 (金) 18:30～20:30	夏休み子ども日本語教室のシミ ュレーション	群馬県立女子大学准 教授 伊藤 健人	20名
6回	6月29日 (水) 18:30～20:30	外国人の子どもの支援を考える ～教科学習につなげる支援 1～	(財)海外技術者研修 協会上席日本語専門 職 神吉 宇一	23名
7回	7月1日 (金) 18:30～20:30	外国人の子どもの支援を考える ～教科学習につなげる支援 2～	(財)海外技術者研修 協会上席日本語専門 職 神吉 宇一	21名
8回	7月6日 (水) 18:30～20:30	レベルチェック	群馬県立女子大学准 教授 伊藤 健人	22名

9回	7月8日 (金) 18:30～ 20:30	評価	(財)日本国際教育支援協会作題主幹 川端 一博	19名
10回	7月13日 (水) 18:30～20:30	夏休み子ども日本語教室の支援方針と時間配分 1	群馬県立女子大学准教授 伊藤 健人	18名
11回	7月15日 (金) 18:30～20:30	夏休み子ども日本語教室の支援方針と時間配分 2	群馬県立女子大学准教授 伊藤 健人	22名
12回	7月25日 (月) 10:00～12:00 【教室は 10:00～11:30】	夏休み子ども日本語教室 1日目	群馬県立女子大学講師 ヤン・ジョンヨン	11名
13回	7月26日 (火) 10:00～12:00 【教室は 10:00～11:30】	夏休み子ども日本語教室 2日目	群馬県立女子大学准教授 伊藤 健人	9名
14回	7月27日 (水) 10:00～12:00 【教室は 10:00～11:30】	夏休み子ども日本語教室 3日目	群馬県立女子大学准教授 伊藤 健人	14名
15回	7月28日 (木) 10:00～12:00 【教室は 10:00～11:30】	夏休み子ども日本語教室 4日目	群馬県立女子大学准教授 伊藤 健人	16名
16回	7月29日 (金) 10:00～12:00 【教室は 10:00～11:30】	夏休み子ども日本語教室 5日目	群馬県立女子大学准教授 伊藤 健人	16名

17 回	7月29日 (金) 12:00～14:00	保護者懇談会		16名＋ 実行委員
18 回	8月5日 (金) 18:30～20:30	夏休み子ども日本語教室 振り返り	群馬県立女子大学准 教授 伊藤 健人	13名
19 回	9月7日 (水) 18:30～20:30	外国にルーツをもつ子どもへの 日本語(教育)について	公益社団法人国際日 本語普及協会理事 関口 明子	17名
20 回	9月9日 (金) 18:30～20:30	外国にルーツをもつ子どもの教 育について	群馬大学教授 結城 恵	16名
21 回	9月14日 (水) 18:30～20:30	外国にルーツをもつ子どもの日 本語学習支援について「たぶ んかフリースクール」の子どもた ちが求める学び	NPO 多文化共生セン ター東京代表理事 王 慧瑾	19名
22 回	9月16日 (金) 18:30～20:30	修了式		20名



(10) 講座の評価

①受講生に対するアンケート

	理解度		満足度		感想
1 回	よく理解できた	13	満足	14	・ 講座の方針が明確にわかった。 ・ 想像以上に奥深い問題がある。 ・ 教える側は準備と心構えが必要と感じた。
	だいたい理解できた	6	まあまあ満足	6	
	難しかった	0	不満	0	
	無回答	4	無回答	3	

2回	よく理解できた だいたい理解できた 難しかった 無回答	13 6 0 4	満足 まあまあ満足 不満 無回答	16 4 0 3	・ 言葉がわからないという心理的負担がわかった。 ・ ダブルリミテッドの現実を知った。 ・ 語学を習得するのに初級で 300 時間必要。学校で必要な人員を用意してやった方が良いのではと思った。
3回	よく理解できた だいたい理解できた 難しかった 無回答	8 10 0 5	満足 まあまあ満足 不満 無回答	11 8 0 4	・ 子どものための日本語学習や教材等がまだ十分整っていないことは意外だ。 ・ 支援する子どもの状況をよく把握することが重要だと思った。 ・ 学習動機や目標設定が大切とわかった。
4回	よく理解できた だいたい理解できた 難しかった 無回答	12 7 0 4	満足 まあまあ満足 不満 無回答	16 4 0 3	・ 既存の教材の問題点や求められる教材がよくわかった。 ・ 小学校の現状、子どもが身近に使える言葉、会話の選び方など勉強になった。 ・ マンガを使った教材はわかりやすいと思った。
5回	よく理解できた だいたい理解できた 難しかった 無回答	9 8 0 6	満足 まあまあ満足 不満 無回答	11 6 0 6	・ 日本語レベルのチェックが質問に対する答えでわかることがわかった。 ・ 質問を考えるのは面白かった。質問の仕方によって答え方もいくつも考えられる。
6回	よく理解できた だいたい理解できた 難しかった 無回答	11 9 1 2	満足 まあまあ満足 不満 無回答	12 8 1 2	・ 日本語ができれば授業についていけるわけではないことがわかった。 ・ 母語の重要性や具体的なことを意識した支援の必要性がわかった。 ・ 子どもを支援する場所は PC が使える場所がいい。

7回	よく理解できた だいたい理解できた 難しかった 無回答	12 8 0 3	満足 まあまあ満足 不満 無回答	14 6 0 3	- 教科の内容がわからないと支援は難しい。 - 支援と学校でやっていることがつながることが重要。 - 感想シートは素晴らしいアイデアと思った。
8回	よく理解できた だいたい理解できた 難しかった 無回答	10 8 1 4	満足 まあまあ満足 不満 無回答	10 9 0 4	- 支援が必要な子どもは、年齢、日本語力、動機が異なるので画一的な資料をつくることに疑問を感じた。 - 日本語レベルに応じた学習内容を事前に準備するのは大切だが、大変そう。
9回	よく理解できた だいたい理解できた 難しかった 無回答	9 9 1 4	満足 まあまあ満足 不満 無回答	9 8 2 4	- 評価は自分の理解度と今後の学習方針を知るために必要とわかった。 - 改めて日本語の難しさを知らされた。 - ニーズ分析には本人以外に周囲の人から話を聞くことも大切。
10回	よく理解できた だいたい理解できた 難しかった 無回答	8 6 1 8	満足 まあまあ満足 不満 無回答	7 7 1 8	- 人に質問することがこんなにも難しいことだったのかと驚いた。 - 子どもが参加してよかったと思える日本語教室にできるように準備したい。
11回	よく理解できた だいたい理解できた 難しかった 無回答	4 12 0 7	満足 まあまあ満足 不満 無回答	7 8 0 8	支援の進め方、注意点を知り、どのように対応していくか具体的にわかった。
12回	- 話し方、接するときの気持ち、座る位置、いろいろな返答をシミュレーションして臨むなど、勉強することがたくさんあった。 - オブザーバーがタイムチェックや誤用チェックをすることも大切だと実感した。 - 日本語の間違いをわかりやすく伝えるのは難しい。				
13回	- 話に気をとられ、日本語学習を重視できなかった。 - 複数で担当するときは、役割分担が必要。				

14 回	- 子どもと会話しながら、間違いを見つけ、指摘し、訂正するのは難しい。 - 互いに学び合えた。 - 教材を作りは実践の流れを理解することができてよい。				
15 回	- オブザーバーの関わり方がわからず、フォローが上手くできなかった。 - 時間配分、毎回の勉強の積み重ねの意味、教材のねらい、チームワークの大切さと個人の責任などを学んだ。 - 質問に答えさせようとして追い込んでしまった。 - 支援者が一方的に話し続ける印象があった。				
16 回	- 予定通りすすめられた。 - 会話力も重要と思った。 - 助詞の誤用について、紙に書いて比べると、理解ができたようだった。 - 要所での先生のアドバイスが参考になった。				
17 回	- 母国との躰の違い、学校の先生とのコミュニケーション不足など、子どもだけでなく親にも支援ができないか？ - 運営委員、保護者の話を聞くことができ嬉しかった。(意義があった) - 子どもの日本語問題の解決には家庭での取り組みが不可欠。いろんな役割分担で問題が解決されるとよい。				
18 回	よく理解できた だいたい理解できた 難しかった 無回答	5 1 0 17	満足 まあまあ満足 不満 無回答	3 2 0 18	- いろいろな考えを知ることができた。 - 実践後すぐの振り返りは具体的にわかりやすかった。 - みんなの熱意を生かす方を考えて欲しい。
19 回	よく理解できた だいたい理解できた 難しかった 無回答	7 7 0 9	満足 まあまあ満足 不満 無回答	8 5 1 9	- 支援するとき何が大切か、具体的な事例があったので、分かりやすかった。 - 子どもの日本語支援は、責任、やさしい眼差し、諦めない強い意志が必要だと実感した。 - 言語発達、自分の思いを表現する言語をもつことの大切さ、読み聞かせの効用など、勉強になった。 - 日本語支援で大切なことは「できる事をやる」「できる事を広げていく」。

20 回	よく理解できた だいたい理解できた 難しかった 無回答	8 5 0 10	満足 まあまあ満足 不満 無回答	8 5 0 10	・ 多様性に配慮した指導の大切さや難しさを感じた。 ・ 言葉の支援だけでなく、将来の進路を考え、母国との教育制度の違いなどを頭に入れておきたい。 ・ 「制度的な問題は国民全体の理解が得られていないということ。それを変えるためには常に現状をチェックしながらデータを積み上げていくことが大事」、「教育方法にはいろんなバリエーションがあってもいい」という話が印象的だった。
21 回	よく理解できた だいたい理解できた 難しかった 無回答	10 4 0 9	満足 まあまあ満足 不満 無回答	11 3 0 9	・ 外国の子どもの心が理解でき、教育について立派な経験をもつ先生の話だった。 ・ 十分な日本語教育が受けられて、日本の子どもたちと同様の教育が受けられるよう少しでも力になりたい。 ・ 様々な問題はあるが子どもの成長を見る楽しさと、自分を高められるという言葉に、今のボランティアを続けていけそうな気がした。 ・ アジア人に対する閉鎖性など日本人として恥ずかしく感じた。シェルターは大きな助け、それに対して金銭的な支援は政府がすべき。 ・ 高校進学につなげる支援は難しいと思った。高崎の現状を知りたい。

22 回	よく理解できた だいたい理解できた 難しかった 無回答	4 1 0 18	満足 まあまあ満足 不満 無回答	5 1 0 17	- 理想を実現することは難しいが、志と仲間、連携組織が一体となって進めば、時間はかかっても良い方向に進むはず。 - 行政の課題、実践の課題、支援する側の心構えなど整理して、目の前の子どもが将来に向かって歩んでいけるように微力ながら応援したい。 - 困っている子どもはいると思うが、目に見えてこないのはなぜか？制度的な問題が解決されない限り難しいのかもしれないが、自分にできることから実践することが大切だと思う。 - 少しずつ自信をつけていける実践の場を設定して欲しい。
全体	- 子どもの日本語支援体制が十分でないことがわかった。 - 子どもに教えるには、概念から入る必要があり、大人へ日本語を教えるより難しい。(簡単でないことを実感。) - 技術はもちろん、日本の教育システムについて知っておく必要がある。 - 日本語を教えるだけでなく、日本で生きていくための手段を教えることも重要と実感した。 - 夏休み子ども日本語教室に参加する人が少なく残念だった。 - 日本語支援のポイント、母語の定義の難しさなど色々学んだ。 - 支援するにはもっと勉強しなければならないことがわかった。このまま月 2 回くらいの勉強会があるとよい。 - 一生懸命に頑張っている人も沢山いるようなので、自分も研修したことを忘れないで、がんばりたい。 - 今回学んだことを周りの人に伝え、外国人と日本語支援について理解してもらいたい。 - 国際交流の「いいとこどり」でなく、将来ある子どもたちが自分たちの多様性を発揮できるよう教育の土台作りは、きちんとしてあげたい。 - 日本語が不自由というだけで、日本のシステムから外れてしまうのは、その子にとってマイナスというだけでなく、日本人の子どもにとってもマイナス。(多文化に触れるチャンスを逃す。)				

	・ 理想は毎日学校帰りに日本語教室だが、現状では困難。学童保育と一緒にできたらよい？ ・ 外国料理屋等にチラシを置いたら PR できる？ ・ 開始時間を厳守して欲しかった。 ・ 高崎が好きな街になった。どんどん期待していきたい。
--	---

②実施主体からの研修内容結果評価

【内容】

前半が子どもに日本語を教えるということはどういうことかという基礎的な知識を学ぶ内容だったことはよかった。特に初心者にはわかりやすかった。また、夏休み子ども日本語教室で、学んだことを実践したことにより、支援するということが具体的にどういうことなのか経験し、新たな課題を発見してもらえた。後半の講義は、実際に子ども支援の現場にいる人の話で、様々な支援のあり方、内容、方法などを知ることができ、志気が高まり、今後の活動へつながるものとなった。

【結果】

週 2 回、22 回にわたる講座であったが、定員以上の応募があり、出席率もよかった。アンケート結果を見ると講座の満足度、理解度ともに適当であり、受講した 23 人中 22 人が、今後子どもの日本語学習支援に協力したいとボランティア登録した。また、そのようなことから既存の日本語教室等を活用した支援や学校等の要請に応じて支援者を派遣することが可能となった。

③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

研修後の人材を活用して、子ども日本語学習支援を拡充できるように努めていきたい。まずは既存の日本語教室に子ども日本語教室を併設したいと考えている。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

高崎市国際交流協会が現在行っている日本語教室のなかで、子どもの日本語学習支援が可能となった。

② 研修後の人材活用

高崎市国際交流協会が子ども日本語教室を立ち上げたり、学校等と連携して人材を派遣したり、支援活動の場を確保していきたい。

なお、受講生の 2/3 が経験の浅い人であったので、フォローアップの研修や情報交換を行ってきたい。

(12) 今後の課題

高崎市国際交流協会が運営する日本語教室に、日本語学習支援を緊急に必要とする児童生徒が少なからず訪れている事実から、子どもの日本語学習支援の拡充は必要であると考え。しかし、養成講座の一環で行った「夏休み子ども日本語教室」には4人の申し込みしかなかった。このことをふまえ、まずは日本語の学習支援が必要な子ども及びその支援体制の実態と課題を把握し、それに即した人材と支援体制を整えなければならない。については教育委員会や学校等、子どもと関係する組織と連携して研究していく必要がある。

また、日本語学習支援の活動においては、人材の不足が慢性的な課題となっていることから、子ども日本語学習支援ボランティアについても定期的に新しい人材を確保していく必要があると考える。

以上の課題解決に向けて、関係各所の理解と財源確保に努めていかなければならない。